

平成26年度病害虫防除技術情報第6号

平成26年8月7日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

野菜類のワタアブラムシ防除対策について

本年は、夏秋ピーマンにおけるワタアブラムシの発生が平年より多くなっています。また、向こう1か月の気象予報によれば、気温は平年より高い確率が40%と予想されているため、今後多発しやすい条件が続く恐れがあります。本種の発生に注意し、速やかな防除に努めましょう。

1 対策

- 1) 夏秋ピーマンでは主にワタアブラムシとモモアカアブラムシの2種が発生し、夏期はワタアブラムシの発生が多い。
- 2) いずれのアブラムシもキュウリモザイクウイルスやジャガイモYウイルスなどのウイルスを媒介する。
- 3) ワタアブラムシの生育は早く、急速に密度が高まるため、低密度のうちに防除する。
- 4) ワタアブラムシの成幼虫は新芽、花弁等を吸汁加害し繁殖も旺盛なため、早期発見に努める。
- 5) ワタアブラムシは、ネオニコチノイド系薬剤に対して感受性の低下が確認されている。発生種の動向を見ながら、代替薬剤としてコルト顆粒水和剤、チェス顆粒水和剤、ウララDFおよび合成ピレスロイド系薬剤を使用する。

2 防除上注意すべき事項

- 1) 作物によって使用できる防除薬剤が異なるので、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し使用する。特に、混合剤の場合、異なる商品名で同一の薬剤成分が含まれる場合があるため、「成分総使用回数」を十分確認したうえで使用する。
- 2) 同一系統薬剤を連続使用すると感受性が低下するおそれがあるため、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。
- 3) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センターホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（<http://www.jppn.ne.jp/oita/>）を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用すること。